

あいち病害虫情報 最新情報

令和3年7月16日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

7月に入ってから梅雨前線や低気圧の影響で雨が多く、日照時間が少なくなっています。
7月15日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、平年と同様に晴れの日が多いですが、気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、降水量は平年並か多い見込みです。

イネいもち病

7月上旬の巡回調査では、葉いもちの発生量は過去10年で最も多い状況です。BLASTAMによるいもち病（葉いもち）感染好適日の推定結果では、7月1日から15日までの間に新城と稲武で葉いもちの感染好適日が複数回観測されています。今後の気象条件によっては、発生量が増える可能性がありますので、発生状況に注意しましょう。詳細は、本日発表の「いもち病情報第4号」を参照してください。

イネカメムシの発生量は多い

7月上旬の巡回調査において、イネカメムシの捕獲数及び発生ほ場率は過去10年で最も多い状況です。本種は、登熟初期の籾を加害することで不稔米を産出しますので、出穂前後の防除を行いましょう。詳細は、本日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第6号」を参照してください。

斑点米カメムシ類（イネカメムシ以外）

予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺数は、弥富市でやや多く、長久手市、大口町、西尾市、豊川市ではやや少ない状況です。7月上旬の巡回調査では、斑点米カメムシ類の捕獲数は水田内で平年並、畦畔雑草でやや少ない状況です。しかし、水田内のクモヘリカメムシの捕獲数はやや多い状況ですので、注意が必要です。コシヒカリは7月下旬から、ゆめまつりなどの早生種は8月中旬から出穂する見込みです。出穂2～3週間前までに畦畔雑草の除草を行いましょう。防除対策等については、7月2日発表の「斑点米カメムシ類情報第1号」を参照してください。

トビイロウンカ、セジロウンカ

トビイロウンカは、7月上旬の巡回調査で捕獲されておらず、予察灯にも誘殺されておられません。しかし、飛来予測回数は、平年と比較してやや多い状況ですので、既に水田内に飛来している可能性があります。

セジロウンカは、7月上旬の巡回調査で、103ほ場中30ほ場で発生を確認し、発生量は平年並です。予察灯ではこれまで長久手市で7月第1半旬に1頭、第2半旬で2頭誘殺されています。

トビイロウンカとセジロウンカは、ほ場ごとで発生密度に差があるので、ほ場をよく観察し、今後の発生に注意してください。詳細は、本日発表の「ウンカ類情報第4号」を参照してください。

ダイズ・野菜類・花き類のチョウ目害虫

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、5月第5半旬に碧南市で、6月第3半旬に安城市でそれぞれ急増したものの、現在はおおむね平年並です。

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は5月下旬に一部地域で多くなり、注意報（5月21日付発表）で喚起したところですが、現在も一部地域では多い状況が継続しています。今後の発生動向に十分注意し、早期発見、早期防除に努めましょう。

シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、近年多い傾向を示しています。今年の誘殺数はおおむね平年並ですが、一部地域で誘殺数が多くなっています。今後の発生に注意しましょう。

果樹の病害

すでに収穫に入っている作物、品種があります。農薬散布にあたっては、当該ほ場だけでなく、周辺のは場の収穫時期も考慮して、収穫前日数及び農薬の飛散に十分注意してください。

ブドウべと病は、6月下旬の巡回調査で発生ほ場率が過去10年間と比較して最も高い状況でした。ほ場での発生状況を確認し必要に応じて、7月2日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第5号」を参考に防除しましょう。

ナシ黒星病は、6月下旬の巡回調査で果実及び葉における発生ほ場率が、いずれも過去10年間と比較して最も高い状況でした。ほ場での発生状況を確認し、必要に応じて7月2日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第4号」を参考に防除しましょう。

モモせん孔細菌病は、この時期に形成される夏型枝病斑から活発に病原菌が増殖、漏出します。これが感染源になるので、見つけ次第切除し、ほ場外へ持ち出し処分しましょう。次作への越冬病原菌量を増やさないためにも、収穫後の秋防除を行いましょう。

果樹カメムシ類

チャバネアオカメムシの誘殺数は、予察灯、フェロモントラップともに7月に入ってから平年並またはやや少ない状況で推移しています。今の時期、チャバネアオカメムシはヒノキやスギの球果などを餌として生育しており、これらの球果を食べ尽くすと、餌を求めて果樹園へ飛来します。果樹園への飛来状況に注意し、必要に応じて防除しましょう。8月上旬ごろ発表予定の「果樹カメムシ情報第2号」で、7月下旬のヒノキ球果におけるチャバネアオカメムシの生息状況等を掲載する予定ですので、参照してください。

チャノキイロアザミウマ

本虫の防除適期は、成虫発生ピークの時期です。アメダス観測地点において有効積算温度を利用した成虫発生ピークの予測日（下表）を参考に防除を実施しましょう。

表 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日（7月16日計算時点）

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第3世代	7/6	7/5	7/1	7/1	7/5	7/6	7/3	7/4	7/10	7/3	第2世代 7/8
第4世代	7/25	7/24	7/20	7/20	7/24	7/25	7/22	7/23	7/29	7/22	第3世代 7/31
(前年)	7/28	7/27	7/22	7/23	7/27	7/28	7/27	7/27	7/31	7/26	(前年) 8/1
前年差	3日早	3日早	2日早	3日早	3日早	3日早	5日早	4日早	2日早	4日早	前年差 1日早
第5世代	8/11	8/11	8/6	8/7	8/11	8/11	8/8	8/11	8/16	8/9	第4世代 8/22

各地のアメダス平均気温から予測。7月15日までは実測値を、それ以降は平年値（豊橋、大府は前年値）を用いて計算。前年の第4世代（稲武は第3世代）は前年気温の実測値を用いて計算。

イチゴ炭疽病

イチゴ炭疽病の発生が一部の育苗ほ場で確認されています。今後のほ場での発生に注意しましょう。発生を確認したら、発病株は速やかに処分し、発病株の周辺にある株も同様に処分しましょう。親株で発生があった場合は、その親株から発生しているランナー、子株も処分しましょう。また、育苗終了まで定期的に薬剤で予防防除を行いましょう。

トマト苗へのコナジラミ類の寄生を防ぎましょう！

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミ、トマト黄化病の病原ウイルス（ToCV）を媒介するタバココナジラミ及びオンシツコナジラミが露地で活発に活動する時期です。育苗時におけるウイルス病の感染防止のため、コナジラミ類に効果のある粒剤を施用するとともに、侵入防止対策として、育苗施設の施設開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を設置しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、HP「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820